

「新型コロナウイルス感染症にかかる奈良県対処方針（5. 13方針）」
についての出口戦略検討会議委員からの意見

R2. 5. 14(木) 防災統括室

- 1 全般及び出口戦略の必要性について
 - 概ね妥当だと賛同する。
 - 基本戦略、具体的作戦がわかりやすく示されている。
 - 現状のデータ分析・エビデンスに基づく、極めて妥当な基本戦略。
- 2 これまでの感染状況についての総括的現状認識について
- 3 当面の行動自粛についての考え方について
 - 重症患者診察のキャパシティは非常に大きな課題。重症患者の診療への配慮をされたい。具体的には、16、24、25ページの判断基準(4)や、28ページの判断基準(7)（感染拡大防止の措置の実効性が充分かどうか）などと言及されたい。
 - 25ページで言及（18床に対して0名）
- 4 今後の出口戦略についての基本的な考え方について
- 5 戦略の具体的な取組方策について
 - 34ページの作戦1において、「既存の医療体制に悪影響を及ぼさない」ことに関する記載がない。
 - 34ページの記載内容全般で表現済
- 6 今後の経済活動活性化と生活困難者への支援について
 - 64ページの「感染症と共存しながら」の経済活動の活性化について、現場

における実態等を調査し、一層きめ細かな相談・対応体制や関係者間の連携システムの整備・充実、所要の資材・物品の確保等について検討し、速やかに実行していくことも重要。

→ 64ページにおいて、出口戦略検討会議に「（仮称）経済活性化検討部会」を設け、感染症と共存できる経済活動様式の検討を行うこととしている。